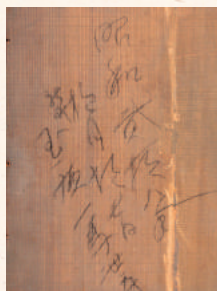




解体工事で見た先代からのメッセージ

◆ 玄関棟



玄関棟南側の天井板に書かれた鉛筆書きの文字

玄関棟の北側と南側は建設年が異なり、北側は大正13年、南側は不明でした。南側の天井板上端に鉛筆書きの文字が発見され、「昭和貳拾八年 拾月拾七日 新町 国廣一馬 卅六才」と読めます。この年代を手掛かりに調査を行った結果、玄関棟南側が昭和28年頃に完成したことが分かった貴重な資料です。

◆ 南棟

南棟に葺かれていた瓦で“道後村”と彫られていました。南棟は大正13年に建設され、道後村は大正12年までであったことから、この瓦は建設当時の瓦であると考えられます。南棟の瓦は何度か葺き替えを行い、様々な年代の瓦が入り混じっており、その中で建設当時の瓦が残っていたのは大変貴重です。



南棟に葺かれていた瓦

◆ 又新殿・霊の湯棟



檜皮葺



昭和44年当時の銅板葺

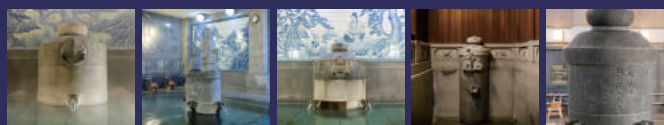


現在の銅板葺



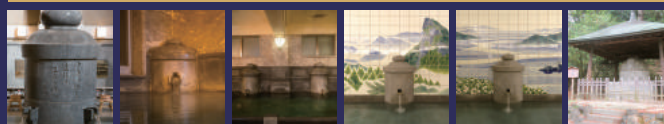
竜の鬼瓦

又新殿・霊の湯棟の屋根は昭和44年に檜皮葺から銅板葺に葺き替えられました。当初の銅板は光沢のある銅色でしたが徐々に緑青がふきました。正面の竜の鬼瓦を解体したところ、昭和44年の刻印があり、屋根の葺き替え時に作り直していたことがわかりました。竜の鬼瓦はいくつかの部材に分かれており製作の工夫が伝わってきます。



湯釜紹介

奈良時代から使用されていたと伝わる道後温泉の石製の湯釜は他の温泉地では見られない独特の趣があり、道後温泉の魅力の一つです。現存する13の湯釜について、歴史的価値などを紹介していきます。



第2回

放生園 湯釜(足湯)

正面に大国主命、背面に少彦名命の像を彫ったこの湯釜(直径1.11m、高さ2.07m)は、明治25年1月から昭和29年の約63年間、養生湯(現在の南棟)の湯釜として使用されたものです。背面にも湯口があるのは、当時は男女の間仕切壁の間に置かれていたため、中央には仕切り壁が取り付けられていた跡も確認できます。

宝珠文字は、千家尊福(せんげたかとみ)の筆により、浮彫で「憫民夭折始製温泉之術」と彫られ、「(大国主命と少彦名命が)民が若くして亡くなることを憐み、温泉の術を伝えた」と訳されています。

現在は、背面の湯口を止め、正面の湯口を使っています。平成14年から足湯として使われ、市民や観光客に広く親しまれ、道後温泉街の発展に貢献しています。



■補助事業名／(重文)道後温泉神の湯棟本館ほか7棟建造物保存修理事業

■補助事業費／国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金

■施工者／門屋組・成武建設・富士造型特定建設工事共同企業体 ■監理者／文化財建造物保存技術協会

道後温泉本館は、神の湯で入浴できます。

※霊の湯(男・女)、又新殿、2階・3階休憩室は休止しています。
※営業時間や入浴料など、詳しくは「道後温泉公式サイト」をご覧ください。

■お問い合わせ先
〒790-0842 松山市道後湯之町5番6号 道後温泉事務所 TEL.089-921-5141



[道後温泉公式サイト]
<https://dogo.jp>

第2号 令和2年(2020年)3月



重要文化財 道後温泉本館 保存修理工事

歴史をつなぐ
未来へのこす

愛媛県松山 道後温泉

道後温泉本館の紹介

営業中



神の湯本館棟

明治27年(1894)竣工。
 檼瓦及び銅板葺の木造
 3階建て、1階に浴場、
 2階・3階を休憩室とし、
 入母屋造の大屋根の上に
 塔屋を設けています。
 (※1階で入浴できます)

又新殿・霊の湯棟

修理中

明治32年(1899)竣工。
 日本唯一の皇室専用浴
 室のある又新殿・霊の湯
 棟は、銅板葺及び檜皮葺
 の木造3階建て、正面(東
 面)に御成門があります。



修理中



南棟

大正13年(1924)竣工。
 養生湯として建築され、
 神の湯本館と同じく、檼瓦
 及び銅板葺。修理前は、
 神の湯女子として使用し
 ていました。

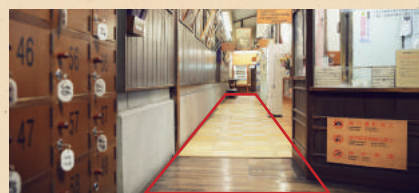
玄関棟

修理中
(内部のみ)

大正13年(1924)竣工。
 神の湯本館と南棟を合わせ
 て、建物全体を整えるため
 に移築されたと伝えられてい
 ます。また、「道後温泉」と書か
 れた看板は昭和25年から
 飾られ、現在は2代目です。



特集：保存修理工事のポイント 中央廊下 排水管



着工前の中央廊下

〈中央廊下深さ2mから陶管が!〉

この陶管は、約50cmのラップ状(管端が差し口と受け口からなっている)(写真右)で、複数つなぎ合わせており、継ぎ目は水漏れを防ぐために補強されています。現在も営業中の「神の湯」浴室の排水管として敷設当時から使用されており、道後温泉の営業を支え、温泉だけでなく、雨水、地下水などすべてをつなぐ最も重要な排水管です。陶管からは製造会社等の刻印などは見つかっておらず、製造場所や時期は分かっています。



工事中の中央廊下、陶管



〈時代が異なる2つの接続(合流)部分〉

陶管と、現在の各浴室からの排水管との接続部(写真・中)を見ると、陶管に後から横穴を接続していることから、昭和10年の曳家の際に現在の浴室の形に合わせて取り付けられたものと推測されます。一方、現在は使用されていない接続部跡(写真・右)も3カ所見つけました。形状から見て敷設当時に合流用の継手を使用していたことが分かります。この接続部跡の位置は、明治27年竣工の神の湯本館棟の「一の湯・二の湯・三の湯」の浴室の位置と一致することから、これら陶管の敷設時期は、神の湯本館棟建設当時と推測されます。

道後温泉本館保存修理工事の進捗状況(令和2年3月時点)

本館保存修理工事の主な工事内容は、①屋根の葺き替えなどの部分修理、②地震への備え、③温泉配管などの設備の更新の3つです。現在は又新殿・霊の湯棟、南棟の屋根工事や地震への備えとして補強工事を実施しています。

◆ 又新殿・霊の湯棟

屋根の銅板葺きや壁・床・天井の解体が完了し、屋根下地の修理、新たな銅板の製作をしています。取り外した障壁画や襖は、京都の専門業者で修理しています。

◆ 南棟

屋根瓦や壁・床・天井の解体が完了し、屋根下地の修理、葺き替える瓦の製作をしています。1階脱衣室、中央廊下の床下では、各配管・配線を敷設し、点検できるスペースを設置しています。

◆ 玄関棟

内部の解体工事が完了しました。今後、地震への備えとして、天井裏や壁の中の補強材を取り付けます。

人がつなぐ 担当者の声

道後温泉本館といえば、増築や改修を繰り返してきた、わが国を代表する温泉建物に興味を惹かれる方が多いかと思います。一方、道後温泉の命ともいえる源泉や温泉の供給方法、排水について考える人は少ないと思います。

道後温泉の源泉は、神の湯本館棟の旧一の湯(現神の湯男子)浴室と旧養生湯(現神の湯女子西脱衣室)に自噴していたと伝わっています。自噴する源泉の湯量を調整することは、建設当時不可能でした。「いかにして、湧き出る温泉を排水させるか」は、当時の道後温泉にとって課題であり、また建物にとってはそれに伴い生じる湿気・腐食との闘いでした。

今回の保存修理工事での陶管の発見は、当時の温泉の排水方法や、増築等を繰り返してきた建物の雨水の流れや、浴室から漏れ出る水の流れ、地下水の流れなどを示す重要な発見であり、道後温泉本館の変遷を探る上でも大変意義のあることだと思います。



松山市 産業経済部 道後温泉事務所
 副主幹/建築設備士 岡平都茂さん



道後温泉本館 保存修理工事 スケジュール

2018年度～2024年度
(予定)

	2018年度(平成30)	2019年度(令和1)	2020年度(令和2)	2021年度(令和3)	2022年度(令和4)	2023年度(令和5)	2024年度(令和6)
素屋根工事		組立	前期工事	移動	後期工事		解体
神の湯本館棟	入口切替				内部・屋根解体調査	内部組立・屋根葺替	
又新殿・霊の湯棟		内部・屋根解体調査	内部組立・屋根葺替	入口切替			
南棟		内部・屋根解体調査	内部組立・屋根葺替		内部・屋根解体調査	内部組立・屋根葺替	
玄関棟		内部解体調査			屋根解体調査	内部組立・屋根葺替	入口切替
事務所棟					内部・屋根解体調査	内部組立・屋根葺替	
便所棟		解体		改築			
本館周辺整備		埋設物調査		塀復旧			石柵復旧

★ 現在

12月
未
完
了
予
定